

# 2012年度 社団法人 羽咋青年会議所

## 理事長所信

2012年度理事長 藤井 崇

創・動・力

～夢を語り、一步前へ踏み出そう～

### 【はじめに】

東日本大震災にてお亡くなりになられた方々に哀悼の意を表しますとともに、被災されたすべての地域の皆様ならびにご関係者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

昨年、社団法人羽咋青年会議所（以下（社）羽咋青年会議所）にて支援物資ならびに義援金を募らせていただきました。ご支援、ご協力下さいました皆様方には心より御礼申し上げます。また、本年度も引き続き義援金等を募らせて頂く場合には皆様の御支援・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

2011年3月11日14時46分18秒、太平洋三陸沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、日本における観測史上最大のマグニチュード9.0を記録しました。震源域は岩手沖から茨城沖までの広範囲に及びました。この地震により10m以上の大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらし、地震と津波による被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所では、全電源を喪失して原子炉を冷却出来なくなり、大量の放射性物質の放出を伴う重大な原子力事故に発展しました。これにより周辺一帯の住民は長期の避難を強いられています。また、大津波以外にも地震の揺れや液状化現象、地盤沈下などによって東北地方と関東地方の広大な範囲で被害が発生し、各種ライフラインも寸断されました。私は地震当時、テレビで観た悲惨な映像は同じ日本国内で起こっているものなのかと疑いました。その映像は今まだ蘇ります。そして忘れ去られては決していけない事なのです。今回の震災による死者・行方不明者は2万人以上といわれ、日本国内で起きた自然災害は戦後最大の大震災でした。

今まだ復旧・復興があまり進まない地域が多くある中、サッカー女子ワールドカップ2011にてサッカー日本代表（なでしこジャパン）が優勝という快挙を成し遂げました。この優勝は日本国民に、そして被災地の皆様には最高の贈り物でした。外国選手に比べ身長も低く、パワー不足といわれていた日本代表選手が一步も引かないプレーで接戦に持ち込み、最後まであきらめず頑張りぬくなでしこジャパンの闘いは全世界みんなに勇気・希望を与えてくれました。

我々JC、そしてJAYCEEとしての活動を認識し、一人ひとりが行動することによってこのような大きなニュースにはならなくとも、青年会議所が目指している明るい豊か

な社会を築き上げる原動力となるに違いありません。

まちづくりには新たな発想を生む創造力、情熱を持った行動力が必要です。その二つの創・動・力は失敗を恐れず元気に突き進む能力であります。一人ひとりがその能力を発揮し、より良いまちづくりを実現するため一緒に頑張りましょう。そしてまちづくりを行うにはひとづくりが最も大切です。私は2004年に（社）羽咋青年会議所に入会する機会に恵まれました。そして今日まで多くの仲間と一緒に貴重な経験をさせていただきましたが、最初に入会し感じたことは「楽しさ」でした。今振り返るとその「楽しさ」の原因は、同じ目標を持ち、それに向けて熱く情熱を燃やすことのできる志高い仲間の友情があったからだと思います。その情熱と志高い仲間がひとづくりの重要な原動力のひとつとなりました。その原動力を支えに、一人ひとりが輝くひとづくりを行うよう精進して行きます。

#### 【愛するまちのために】

2014年度の開業が予定されている北陸新幹線、2013年4月1日に能登有料道路無料化といった経済環境の変化は、私たちのまちでも人口交流を必要とすることがとても重要になりました。しかし、未だ先の見えない不況による業績悪化や市町の税収の落ち込み、少子高齢化など問題は山積みです。それでも今の時代を嘆くばかりでは何も変わることはありません。誰かがやってくれるという他人事の意識からは脱却し、このまちの未来に対して「我々がやらなければ誰がやる」という強い意識を持ち、より良いまちづくりを課せられていると自覚を持つことです。そのためにはこのまちをより愛し、もっと深く知ることが大事であり、そして我々のまちの財産（歴史・文化・伝統・地形など）の魅力を内外に向けて発信する運動や事業を展開していく必要があります。その財産の代表として、大型バスまでが走行できる海岸として日本にはもちろん一つしかなく、世界でも三つしかない海岸、なぎさドライブウェイはとてもすばらしい誇りある財産のひとつなのです。その財産を守って行くのも（社）羽咋青年会議所の使命なのです。

今後（社）羽咋青年会議所は、行政や他団体、組織力を持たない市民の皆様方と協力・連携し、またJCの強みでもあるネットワークと行動力を武器に、私たちの愛するまちのために尽くします。そして私たち責任世代として、次世代の為に愛するまちを守り、発展させる為には何が必要なのか。それは青年会議所なのです。そう、我々（社）羽咋青年会議所なのです。さあ皆さん、共に夢を語りましょう。そして、共に汗を流し行動しましょう。

#### 【子供たちのために】

パソコンや携帯電話など、インターネットの多様化による情報収集やツイッターなど便利になった反面、お互いの顔を見て、声を出し、声を聞くなど、体を向き合わせてのコミュニケーションが不足している時代なのかもしれません。子供たちを取り巻く環境は日々変化しており、その環境を整えるのも私たちの役目でもあります。最近の若者の中では、就職活動の面接で自分の長所はと聞かれ答えられない人も多いようです。子供たちが社会人になった時、自分の長所を自分で言える、自分に誇りを持てる人間として我々が育て、時には育つを見守る事も必要だと思います。私たち（社）羽咋青年会議所は子供たちを「育てる」そして「育つ」環境をつくり、思いやり、うれしさ、楽しさ、悔しさなどの経験や

体験を提供できる事業を行って行かなければなりません。その子供たちが未来を担う若者たちに成長し、そしてその若者たちが更にまちを発展させることにつながるものだと考えます。子供たちの無限大の可能性を少しでも引き出せるよう、子供たちのために、まちのために取り組みましょう。

#### 【新たなる挑戦】

公益法人制度改革が2008年12月1日に施行され、我々も公益社団法人格の取得を視野に入れ活動を行ってまいりました。2013年12月までに公益社団法人か一般社団法人かの選択をし、移行をしなければなりません。

2010年7月1日、日本JCが公益社団法人に移行いたしました。また(社)羽咋青年会議所も2010年度には公益社団法人格の取得の決議がされ、2011年度には本格的な定款の変更や予算書・事業計画書の見直し変更を行いました。そして2012年度は通常総会で承認した予算書を添付し公益法人格取得申請を行い、少しでも早く公益法人格を取得し移行する新たなステージへ大きな一歩を踏み出します。新たなる挑戦をすることは、(社)羽咋青年会議所そしてメンバーに大きな成長をもたらすことでしょう。

#### 【リーダーとして】

会員拡大は、青年会議所だけではなく各種団体の永遠のテーマでもあるといわれております。そうした中、メンバー一人ひとりが羽咋JCという組織にもっと誇りを持ち、自分たちの思いや活動内容を丁寧に伝え続けることが大切です。景気が決して良いとは言われない社会状況の中、そのメンバーの会費を原資に、三信条を掲げ明るい豊かな社会の実現を目指して楽しく活動していることを伝えれば、必ず仲間は増えていくはずで、今年度も全メンバーで積極的に会員拡大を進め、新たなる仲間を求め活動しましょう。

青年会議所は新しい仲間を継続的に発掘し育成していくことが重要です。そのためには我々自身がリーダーとして成長しなければなりません。自分自身の成長なくして説得力は生まれず、組織を語るはずもありません。つまりは各々が積極的に会議や事業に参加し、そして自ら発言・行動することから真のリーダーとしての始まりといえるのです。今年度、リーダーとして私自身頑張りますので、メンバー全員リーダーと成るべく一歩前へ踏み出す一年とします。

#### 【終わりに】

本年度(社)羽咋青年会議所は創立48周年目を迎えます。この48年という歴史の中で先輩諸兄が築き上げてこられた伝統を受け継ぎ、今後我々が進むべき方向性を再認識し2年後に迎える創立50周年という節目に向かい、更なる進化を得る一年となるよう邁進して参ります。

私は、全会員の成長と喜びに触れ、創・動・力を持って邁進する覚悟であります。今年度、多くのメンバーに新しい役職、役割をお願いしました。私も理事長として成長し挑戦しますので皆様も失敗を恐れず、共に成長し挑戦して、今年度の終わりには達成感でいっぱいになる一年になりますよう、頑張ってください。会員諸兄の皆様、一年間よろしくお願ひ致します。